

チェルノブイリ通信

2003年5月15日

No. 56

発行 チェルノブイリ支援運動・九州 事務局

連絡先 福岡県遠賀郡水巻町下二西3-7-16(株)ウインドファーム内
TEL・FAX 093-203-5282

E-mail jimmu@cher9.to

URL <http://www.cher9.to/>

郵便振込口座 01770-1-65328 チェルノブイリ支援運動・九州



童話「チェルノブイリのたんぽぽより」

*チェルノブイリ放射能汚染の現場から
ゴメリ州立第二病院 オレグ医師からの報告

*臨床検査技師、三本さんからの検診報告

*童話「チェルノブイリのたんぽぽ」

作/小野 正法

*新・事務局員 吉本さんのレポート

*講談「チェルノブイリの祈り」のご案内

*「アレクセイと泉」の上映会を終えて

*総会報告

最も多くの甲状腺ガン患者が出たゴメリ州、
その医療現場からの報告



ベラルーシ共和国ゴメリ州から来日したオレグ・クラシユク医師（右）

チェルノブイリ

放射能汚染の現場から

ゴメリ州立第二病院

オレグ・クラシユク医師からの報告

私はゴメリ州立第二病院の腹部

外科医として働いています。そこ

での診療、病院等の概略につい

て、また今年でチェルノブイリの

原発事故から17年が過ぎますが、

事故当時の様子などを含めて現地

からの報告をさせて頂きます。

チェルノブイリ原発事故は、今

から17年前の1986年4月26日

に起こりました。当時私は15歳で

した。

原発事故の様様につきまして

は、5月1日まで、一切なにも、

旧ソ連邦の政府から知らされるこ

とはありませんでした。原発事故

が起きた当初から、私たちは連休

に入り、5月1日のメーデーに向

けての準備をしながら、みんな楽

しい日々を過ごしておりました。

事故当時のことは今でもはつき

り覚えています。事故があつてし

ばらくして、雨が降りました。暑

かったので、私は普通のランニン

グシャツを着ておりました。とこ

ろが雨が降った後、シャツを見て

みると、灰色になっていました。

何か変わったことが起きたという

ことは、私も感じていました。

5月に入り小学生の低学年の子

どもたちはウクライナをはじめ旧

ソ連邦の、非汚染地域に避難させ

られました。

高学年の子どもについては、5

月20日から黒海沿岸のサマース

クールに送られていきました。

事故後、しばらくの間、原発事

故や放射能汚染に関する詳しい情

報は知らされなのまま、私はゴメ

リの大学に進学しました。

ゴメリという街は約50万ほどの

人口で、自動車やラジオ、また農

業関係の機械の製造工場が多くあ

り、工業が発達しています。

私が働いているゴメリの第二番

病院は、約400ベットある総合

病院で、内科、外科、そして私が

働いている腹部外科など、すべて

の科があるゴメリ州の基幹的病院

です。

そうした街で、17年前に起きた

チェルノブイリ原発事故により、

何が起こったかということをお

話したいと思います。人類で例を

見ないチェルノブイリ事故の被害

にあった人々の状況について、日々の診療のなかから得た情報を皆さんにお伝えさせて頂きます。

チェルノブイリ事故の後、小児甲状腺ガンの急増が問題になりました。

チェルノブイリ原発からゴメリまでは、約130キロメートルです。事故後、チェルノブイリ原発から放射能が流れていって、ベラルーシの領土の約3分の2を汚染していきました。そのなかで一番汚染された州がこのゴメリ州です。

原発事故によって空中に飛散された放射能のうち、放射性ヨウ素が甲状腺に対して様々な障害を起こしました。甲状腺ガンの発生率が、なぜ短期間の間に上昇したのか。その原因として、ゴメリに限らず旧ソ連邦は内陸にあるために、ヨードが不足している地域であることからより大きな影響がでたことが分かっております。

このようにヨードが不足した地域において、例えば、ヨードを口から入れて、ガンが防げるかということは大きな問題になっております。

今日、報告している資料は、ゴメリ

の州立悪性腫瘍研究所病院のデータです。放射線量に関しては私は専門家ではありませんが、多少、我々の間で分かっていることについてお話ししたいと思います。

子どもたちが受けた放射線量についてですが、約1万5000人の子どもたちが0.3シーベルトの放射能を受けて、1万4000人の子どもたちが、0.3から2シーベルトの放射線を受けました。そのなかの3500人の子どもたちが2シーベルトの放射能を受けています。

ゴメリ州の人口というのは、ベラルーシ共和国の12%を占めます。しかし甲状腺ガンを患っている約53%がゴメリ州の人たちということになります。

2000年の4月にベルリンで開かれたチェルノブイリ事故14周年の国際シンポジウムで、ゴメリ州では将来5万人の人たちが甲状腺ガンを患うのではないか、ということが言われました。彼らの様々な調査の結果、そう言われましたが、実際はそうではなかったということをお話したいと思います。

1996年から2001年までのゴ

メリ州における14歳までの小児甲状腺ガン患者の絶対数です。1996年に42人、1992年38人、2001年には0人になって、合計157名の子どもたちが小児性甲状腺ガンを患いましたが、先ほど言ったベルリン国際会議のような数字にはなりませんでした。

14歳以下の小児人口に対する甲状腺ガンの発病率を見ますと、ピークは1995年でそれ以降は、下がっていきます。しかし、逆に、思春期の15歳以上の人たちは、この時期を境にして、増えてきている。それは何を意味しているかということ、事故当時に0歳から5歳の子どもたちが現在、思春期に達して、そういう人たちのなかから、甲状腺ガンを患う人が増えてきている。こういう人たちは、乳児、幼児の時期にチェルノブイリ事故の影響を受けた人たちと言えると思います。現在、思春期の間で甲状腺ガンがでているということが、問題になっております。

なぜ、現在小児性の甲状腺ガンが、低下しているかを考察してみると、まず第一に、ガンを形成する時期のピークがもう過ぎたために下がっているということが考えられます。二番目には、それまで経済的破綻を理由に作られていなかったヨード入りの食塩を作る工場が、1994年を境にしてようやく普及してきて、ヨード入りの食塩を作れるようになったということが考えられます。だいたい一日に100ミリグラムぐらいのヨード入り食塩をとることで、甲状腺ガンが減ったと考えられています。

三番目に、甲状腺に結節ができた人たちに對する診断の技術が上がり、組織的診断も可能になり、早期に診断して治療、手術ができるようになったために、そうした甲状腺ガンができる人たちの数が減ったと考えます。

まとめとして、まず第一に2000年以降、ゴメリ州においては、小児性甲状腺ガンの数が減っているということが一つ、そして、甲状腺ガンによる死亡率は、0.6%という結論ができています。以上のようなことがまとめとして、我々の17年間の体験からできてきました。以上が今回の私の報告の全てです。ご静聴、ありがとございました。

第2回、プレストプレスト甲状腺検診 報告・三本亜紀（広島甲状腺武市クリニック・臨床検査技師）

【表1】
ベラルーシ検診 血液検査結果，2002年12月

血液検査実施人数			甲状腺機能亢進症 A		
男	女	計	男	女	計
6	58	64	1	5	6
甲状腺機能低下症 B			慢性甲状腺炎 C		
男	女	計	男	女	計
0	0	0	0	19	19

私たちは2002年12月に、ベラルーシのプレストにおいて甲状腺ガン検診を実施しました。男性6名、女性58名、計64名の方に血液検査、エコー検査を行い、男性6名、女性57名、計63名の方に尿中ヨード検査を行いました。またエコー検査結果より、男性4名、女性41名、計45名に対し、エコーガイド下による穿刺吸引細胞診を行いました。

血液検査の総合的な結果は「表1」に示すとおりです。男性1名、女性5名、計6名、全体64名のうちの9%が甲状腺機能亢進症でした（表1・A）。慢性甲状腺炎は女性19名、全体の29%でした（表1・C）。甲状腺機能低下に該当する人はいませんでした（表1・B）。今回の検診では甲状腺剤、または抗甲状腺剤の服用の有無を確認していませんでしたので、この血液検査の結果が真の結果か、薬の治療効果が加わっているのかを明確にすることができませんでした。次回からの検診では問診表に甲状腺剤、または抗甲状腺剤の服用状況を記入してもらいたいと思います。

次に尿中ヨード検査結果について報告します。尿中ヨード、尿中クレアチニンを検査し、クレアチニン比を出しました。実施者63名の平均値は「表2」に示すとおりです。日本人スタッフもベラルーシ出発前に採尿し、同様に尿中ヨード検査を行いました。日本人スタッフの全体の平均値は 338.42 ± 195.73 でしたので、プレストと日本の両者の平均値を比較するとプレストのヨード摂取率がいまだに低いことがわかりました（表2・C）。また日本の男性スタッフの平均値は 209.03 ± 89.96 、女性スタッフは 532.5 ± 107.2 でしたので、性別で比較した場合でもプレ

ストのほうが低くできていました（表2・A・B）。このことから今後の検診で、ヨード入り食塩を使用するなど、ヨードをもっと摂取してもらうような活動も必要になってくると思われる。

【表2】

ベラルーシ検診 尿中ヨード検査結果，2002年12月

	尿中ヨード($\mu\text{g/dl}$)		クレアチニン比($\mu\text{g/g Cr}$)		
男性	137.79	± 59.91	184.27	± 91.17A
(計)	6人	平均年齢 43.3	± 22.5 (歳)		
女性	130.13	± 86.54	201.02	± 260.10B
(計)	57人	平均年齢 40.9	± 13.0 (歳)		
計	130.86	± 84.36	199.42	± 248.87C
(計)	63人	平均年齢 41.2	± 13.9 (歳)		

続いてエコー検査、細胞診検査について報告します。エコー検査は全体64名について行い、その結果より異常が認められた45名に対して細胞診検査を実施しました。具体的な結果は「表3」に示すとおりです。45名中42名は良性であり、その内訳は腺腫様腫瘍が40名（表3・C）、慢性甲状腺炎が2名でした（表3・D）。そして今回、甲状腺ガンが2名見つかりました（表3・A）。

【表3】
ベラルーシ検診 細胞診結果，2002年12月

細胞診実施人数			甲状腺癌 A		
男	女	計	男	女	計
4	41	45	1	1	2
濾胞新生物 B			腺腫様腫瘍 C		
男	女	計	男	女	計
0	1	1	3	37	40
慢性甲状腺炎 D					
男	女	計			
0	2	2			

今回検診を行った全体64名のうちの3%にあたります。このうち1名は16歳の少女でした。また要再検の診断がついた方が1名います（表3・B）。この方についてはすでにプレストのアルツールDrに報告しており、彼らによって再検査がなされていると思います。今回の細胞診検査において問題となったのが染色液の悪さです。今回、ギムザ染色、パバニコロウ染色を現地で行いましたが、ギムザ染色の染色性の悪さが問題となりました。このため、診断に苦慮する標本もあり、苦労しました。今後の検診を潤滑に進めていくためにも染色液のことについては考えていかなければいけない課題の一つだと思われます。

はじめてのベラルーシ、その自然と医療現場を訪ねて

臨床検査技師、三本亜紀さんの感想



私は一面銀世界の真冬のベラルーシを訪れました。初めて体験したマイナス20度の世界。そして、異国での生活。目に映るものすべてが新鮮で、色々なものに興味を覚えました。

ベラルーシという国はどこなところなのだろう、ちゃんとやっていけるのだろうかと多くの不安を抱えながら、ミンスク空港に降り立ちました。これから何日間か共に検診を行うスタッフ方、ロマノフスキー赤字総裁の篤いもてなしに迎えられる、期待に胸を躍らせながらホテルへ向かいました。空港周辺は想像以上に寂しいところでした。

しかし、華やかな町並みとは対照的な薄暗い病院。飾られただけの動かない壁掛け時計。見学させてもらった検査室では、一方では単眼鏡微鏡を使い、またプレパラートを再利用しながら血液検査をし、10年以上前に購入したという自動分析器で生化学検査をしています。自動分析器を見たときはこの病院は十分な設備があるのかと思いましたが、見学して

たが、市街地に入ると12月ということもあり、建物はクリスマスイルミネーションに彩られ、日本と同じように夜の街には若者が行き交い、レストランでは賑やかな音楽が流れる中、食事や会話を楽しむベラルーシの人々。経済的にかなり苦しい国だとはとても思えないほどでした。

しかし、華やかな町並みとは対照的な薄暗い病院。飾られただけの動かない壁掛け時計。見学させてもらった検査室では、一方では単眼鏡微鏡を使い、またプレパラートを再利用しながら血液検査をし、10年以上前に購入したという自動分析器で生化学検査をしています。自動分析器を見たときはこの病院は十分な設備があるのかと思いましたが、見学して

いくうちに、何十年か前の日本の検査室を見ているような感じにも思えてきました。やはり十分な設備がなく、今あるものでもなんとかやっているような感じがしました。最新の設備が揃っている日本の病院を見慣れている私にとって、検診活動以外に他国の検査室を見学することができ、また検査技師の方にお会いすることができとても貴重な経験をすることができました。今回は検査技師の方とお話をする機会はほとんどなかったのですが、チャンスがあればもっと交流を深めてみたいと思います。

初めての検診活動、初めての訪れる国、生活習慣の違い、現地スタッフとの言葉の壁。検診がうまくいくか、不安だらけでした。その不安を少しでも少なくするため1ヶ月以上前から準備を始め、万全の体制で検診に臨んだつもりでしたが、検診初日

から検診道具が届かないなどのトラブルが生じ、検診途中で体調をくずしたりと、自分の中で満足のいく結果を出すことができず、悔しい思いをしました。そんな中、日本人スタッフや現地スタッフに励まされ、助けられながら無事に検診を終えることができました。みなさんにはとても感謝しています。

検診に参加して、いくつかの問題点にも気づきました。しかしそれらは国の事情もあり、すぐに解決できるものばかりではありません。これから続く活動の中で少しずつでも良い方向に向かっていくことを目指します。今回初めて検診に参加してみて、楽しい事ばかりではありませんでしたが、新しい出会い、新たな発見、貴重な体験などたくさん思い出ができました。また訪れてみたい国のひとつになりました。



作 小野 正法

チェルノブイリの たんぽぽ



小さな種が風に揺られて旅をしています。種はきれいな場所できれいな花を咲かせるために旅をします。



あるとき種が風によって旅をしているとても美しい景色を見つけました。種は心踊らしてその大地においてゆく…
その大地の名はベラルーシ種は

ベラルーシの土に埋まり
ベラルーシの雨に潤い
ベラルーシの風の音色を聞き
ゆったりと眠りました。
いつしか地面からは芽が
ひょっこりと顔を出します。
周りを見回すと近くで2人の
子どもが楽しそうに遊んで
います。
芽はとても喜びました。



それから芽は「元気をなくし
成長を止めたままだった。」

「わたしは自分とまわりの
異変に気がつきました。
ベラルーシには「見えない
毒」放射能がちらばっていた
のです。
「わたしはきれいな場所で
花を咲かせたかったのに…
こんなはずじゃなかったの
に…」
芽は泣きました。
芽は自分が描いていたきれ
いな花を咲かせられない悲
しみで泣きました。



毎日、毎日、この場所には2人の子どもが遊びにやってくる。
子どもはその芽をみつけないでいた。

「おにいちゃん！ この芽は何の花の芽かな…？」

「おぬ？ 何の花だろうわねー。もしかしたら…誰

も見たこともないきれいな花かもしれないぞー」

「見たこともない花かぬ。見たい！ 見たい！ 僕

…毎日、この芽を見に行くよー」

それから子どもたちは毎日、毎日、芽の成長を見に来ました。

「早く大きくなって花が咲かないかな〜」

子どもたちは楽しみにしています。

子どもたちも「見えない毒」に汚染されています。

芽にはそれがわかりました。

芽はそれでも元氣よく遊ぶ2人の子どもがこども不思議でした。



いつしか芽は自分も負けないようにその子どもたちに自分の花を見せようと思いをしました。

だから芽は成長します。

元気をだして成長します。

やがて芽はつぼみになりました。

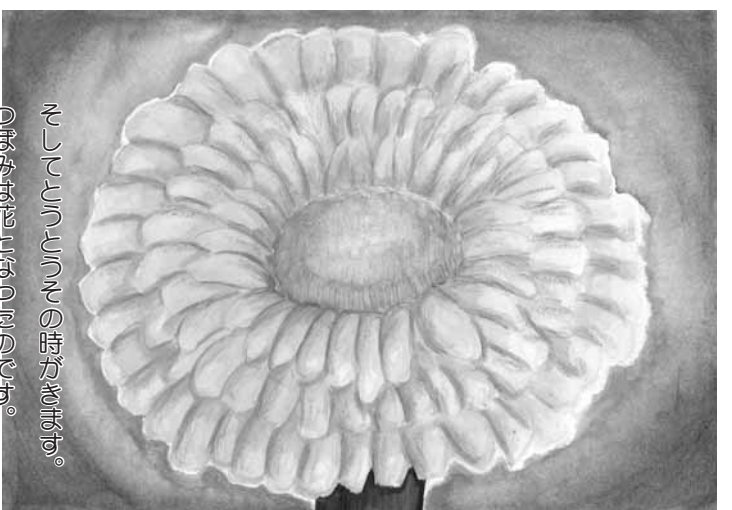
つぼみは思います。

「もうすぐだよ！ もうすべて私は花を咲かせ子どもたちに見せることができるよ」

つぼみは楽しみです。

でもいつからか子どもたちはつぼみを見る

に行くことはなくなりました。



そしていついつその時が来た。

つぼみは花となったのです。

黄色いかわいたんぼほになったのです。

たんぼほは喜びました。

そして待ちます。

子どもたちを…

だけと子どもたちはいつに現れません。

たんぼほはそれでも待ちます。

「わたしの花を見せるのー」

たんぼほは毎日、毎日待ちました。

日がかげれば閉じて…

日が射せば開き…

閉じて…

開いて…

たんぼほは待ち続けます。



そしてたんぽぽはとうとうその花びら
をしおらせ地面へと倒れかけてしま
いました。

たんぽぽはそれでも待ちました。

もう見せる花はないけれど…

たんぽぽは毎日、毎日待っていました。

あの子どもたちを。

やがてたんぽぽは頭に白い飾りをつけ
て、その体を立ち上げ、待っています。

するとあの子どもたちの一人がたんぽ
ぽに近付いてくるではありませんか。



子どもは少し疲れた顔をして真っ
赤な目をしていきます。

何となくたんぽぽにはわかつてい
ました。

たんぽぽは小さく囁きます。

「やっと来てくれたね…でもわ
たしにはもつあなをたちに見せる
花はないわ…」

子どもはだまってたんぽぽの花を
手にとらえます。

「そんなことはないよ！君はこん
なにきれいな白い花になってる
じゃないか…」

たんぽぽは嬉しそうに自分の体を
揺らしています。

子どもは泣き出しそうな顔をしています。
 そんな子どもの顔を見てたんぼぼは言います。
 「わたしを吹いてごらんよ… あなたのその悲し
 みを悔しさを込めて吹いてごらんよ… 私が…
 私の子どもたちがその思いを伝えていくわ…」
 子どもは大きく息を吸い、そして吹きました。
 泣きながら何度も何度も吹きました。
 遠くに遠くに色々な場所に飛んでいくよつぽ…
 チェルノブイリのたんぼぼは満足そうに「子どもの
 息でその体をゆらしています。」



チェルノブイリのたんぼぼの種は飛んでいく…
 子どもの吹く息で飛んでいく…
 伝えまた伝え飛んでいく…
 色々な場所で花を咲かせながら… 伝えていく…
 忘れてはならないチェルノブイリを…
 忘れてはならない生き続けるいのちを…

(3)

作者からのメッセージ



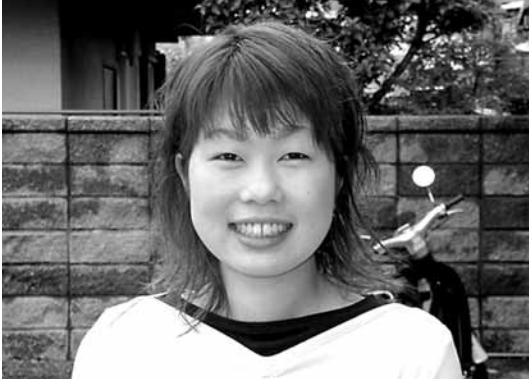
この絵本は僕がチェルノブイリを知る
 上で感じたさまざまな人たちのチェルノ
 ブイリに対しておこなっている支援活動
 をイメージして書きました。
 一つの種が多くの種を生みまたさらに
 種を生むように… 多くの人達がチェル
 ノブイリ支援に賛同してくれています。
 僕もまた自分自身を一つの種だと感じ
 ました。
 だから僕にできる方法で… 種を飛ば
 します。
 そして多くの人達に伝え知ってほしい
 のです。
 チェルノブイリの原発事故はまだ終
 わってないことを…
 そして飛ばしてくださいあなたに埋め
 込まれた種を…
 あなたにできる方法で…



山田英雄さんの講演を聞いて

チェルノブイリの実情が明確に

新・事務局員 吉本美貴さんのレポート



私がチェルノブイリ支援運動・九州に関わるようになったのは、事務所にボランティアで訪れてからだ。それまでただ漠然とボランティアに興味はあったものの、どこに切り口を見つけたらよいものと迷っていたところ、インターネットで「ボランティア募集。気軽に来て下さい」というページを発見した。「チェルノブイリ?」そういえば教科書に載っていたかも。何で今ごろ...? なにかブルーハーツが歌っていた気もする」と思いつつ、私は「気軽に」という言葉を真に受け、深く考えずに足を踏み入れた。その後

仕事の合間を縫っては、時々ボランティアとして参加していた私は、ある時、事務局がアルバイトを募集する聞き、じゃあ私で! と手を挙げた。

こうして、本格的に関わるようになった私は、少しずつチェルノブイリ原発事故の資料に目を通し始めた。しかし文字通り記憶もほとんどないためか、いまちピンとこなかった。

そんな私にとって、チェルノブイリ支援運動・九州、医療顧問の山田英雄さんとの出会いは、とても貴重だった。山田さんは、広島大学原爆放射能医科学研究所付属国際放射能情報センター・非常勤講師であり、また旧ソ連の医師免許を持つロシア語医療通訳でもある。1度会ったら忘れられない、とてもユニークでパワフル、そしてダンディーな人である。

その山田さんが、2月4日、グリーンコープ連合・組織委員会主催の脱原発学習会に、講師として招かれ、講演を行った。私はそれまでに2度お会いしていたが、2度ともその迫力と

広島弁に圧倒され通じなかった。この日は負けないように朝から気合いを入れて会場に向かった。

講演はチェルノブイリ原発事故の背景から始まった。旧ソ連邦の地理的・地形的特色、政治的背景から、事故後の被害が地域住民に浸透していく経緯を踏まえ、ベラルーシ共和国の被災者への支援活動へと話は進んだ。これまで行ってきた現地医療の

自立支援にむけての一貫したシステマ作りの説明、検診結果の報告、さらに現在の問題点である、急増中の「思春期」甲状腺ガンへと内容は発展する。そして最後に、1番重要なことは現地に拠点を持つこと、それは単に医療設備などを整えることだけをいうのではなく、現地の人々と私たちが互いに信頼を持ってつながることであり、市民、経済界、専門家が一緒にあって協力していくことが大事だとまとめられた。

長くて難しいはずの内容を、山田さんは噛み砕いて分かりやすく説明され、時折、その人柄から自然に出てくる冗談に、会

場のあちこちから笑いが起こっていた。

いまちピンと来なかったものが、山田さんの講演を聴いて、すっきりと頭に入ってきた。この学習会を境にして、私の中のチェルノブイリ事故に対する意識はようやく高まり始めた。チェルノブイリは教科書に載っていたような済まされた昔の出来事ではなく、今なお、そして今後も永くその被害は続いているのである。そしてそれは私が最初に思っていたよりもはるかに深刻な状況だった。

今回のプレストにおける第3回検診に、事務局から私も同行する予定になっている。ブルーハーツのヒロトは「チェルノブイリには行きたくねえ」と歌っていたが、私は早く行ってみたい。「ナージャの村」や「アレクセイと泉」の中にあつた美しい自然、美しい人々、豊かな生活を実際に見てみたい。そして、その本来美しいはずの人間が作り出した放射能の残酷さを確かめたい。今度は単に知識として頭に入れるのではなく、肌で感じ、心に入れなければ。

●お知らせのページ

講談『チェルノブイリの祈り』

未来の物語 筑前琵琶によるレクイエム

9.11、アフガニスタン、イラク侵攻と21世紀になってますますおそろしい出来事が続いています。戦争ほど環境を破壊するものはないし、人や生物やこの星を侵すものはない。そして戦争は、最先端の科学と巨大な技術を駆使することではかりしれない破壊力を持ってしまいました。科学や技術と仲良くくらすことはできないのでしょうか？ 生物である人間にとって本当に気持ちのいいあり方、生き方は望んではいけないものなのでしょうか？

科学技術の破壊力を見せつけられた1986年のチェルノブイリ原発事故のとき、愛するひとびとがどのように生きたか、神田さんの講談に聴きたいと思い、九州キャラバンを福岡でも引き受けました。どうかぜひ聴きに来てください。
「チェルノブイリの祈り」を上映する会



日時 2003年7月4日(金)
午後6時半開場、7時開演、9時半終了
会場 唐人町プラザ甘棠館甘棠館 Show 劇場
(Tel/Fax:092-737-1225) 定員 84名
内容 講談「チェルノブイリの祈り」／神田香織さん
筑前琵琶 池田智鏡さん
チケット代 1,500円
問い合わせ先: たんぼぼとりで
Tel・Fax:092-882-6993 / Email: yamanac@cmsil.plala.or.jp
九州各地の問い合わせ先: 脱原発ネットワーク九州
Tel:093-452-0665 Fax:093-452-0611
Email: mfukae@lime.ocn.ne.jp

神田香織さんプロフィール

☆演劇活動を経た後、講談師神田山陽門下生となり、二つ目以降はジャズや一人芝居などの要素を取り入れ、独自の境地を開く。1986年、「講談はだしのゲン」公演で日本雑学大賞を受賞。☆今回の公演は「未来の物語 チェルノブイリの祈り 孤独な人間の声」と題して、スベトラーナ・アレクシエビッチ著『チェルノブイリの祈り』のなかの、消防士とその妻の哀しい物語を彼女自身が2年がかりで翻案したもの。1986年に起こった大惨事の中で、若い二人に降りかかった体験を語りながら、科学の発展は果たして人間を幸福にしているのか、科学の発展に人間はついていけるのかを問う作品となっている。池田智鏡さんプロフィール☆ 鞍手郡宮田町普光寺・若宮町吉祥寺の住職。炭坑の慰霊塔で鎮魂曲を捧げる。

主催: 神田香織講談「チェルノブイリの祈り」を上演する会

共催: チェルノブイリ支援運動・九州、チェルノブイリ友の会、ウインドファーム、日本グルンドヴィ協会、たんぼぼとりで

賛同: 妙法寺(ひまわり発電所)、龍国寺(たんぼぼ発電所) 賛同団体募集中

ベラルーシの物語、聞いてみませんか？

読み聞かせの活動をしている力丸邦子さん

長野県佐久市にお住まいの力丸邦子さんは、ベラルーシの子どもたちとの文通を続けながら、チェルノブイリの物語を日本の子どもたちに読み聞かせる活動をしています。チェルノブイリの子どもたちの作文集「私たちの涙で雪だるまが溶けた」や「チェルノブイリの祈り」などの朗読を聞いてみたいという人がいましたら、是非、お問い合わせください。

お問い合わせ先 TEL/FAX 0267-68-2662
力丸 邦子

映画「アレクセイと泉」の上映会を終えて

チェルノブイリから遠賀川を通して 水が届けてくれた手紙



3月30日に行われたイベント「アレクセイと泉」上映会：水とともにいきる「水といのちのおはなし」では、映画「アレクセイと泉」の上映とともに、チェルノブイリの現状報告、福岡県下の人々生活を支えている遠賀川の現状を伝える講演が行われた。遠賀川は、九州の一級河川の中で汚染度はワースト1。産業廃棄物や家庭ゴミなど様々な要因でさらに深刻な状況にある。チェルノブイリの放射能で汚染された村で水とともに生きるペラルーシの人々の生活に想いを馳せる一方で、水や環境を汚しながら営まれている私たちの足元を見つめ直すことで、様々な感想が寄せられた。

◎ 来場者アンケートより抜粋 ◎

- 「生きる」という事の原点を見た感じ。現在の日本、そして自分の生活を深く反省させられました。心をあらわれる思いと、アレクセイさんの何とも言えないやさしさと、そしてゆったりとした中の力強さに、感動しました。
- 人間の傲慢さが引き起こす罪の重さを知っている。「自然と共に生きる生活のぬくもり」だけでは止められない事が何とも息苦しい。
- 個人が集まり、多くの人々に、こういう気持ちの意味あわせてくれるってすごいな。いい気持ちです。そして少し複雑な気持ちです。
- 自然の移り変わりと共にある暮らし、もともと私達はそういう暮らし方をしてきたことが改めて気づかされる。今の暮らしは何だろ。なにかもろいものの上に立っているような気がするが、その中でも自分が納得できるような生き方を選んでいかなくてはと思う。
- 筑豊をとられた本橋さんを尊敬していました。その方が、こんなに深い人間愛と怒りを表して下さって、ありがとう。今までも上映されたこと知らなかった。死ぬまでに10回くらい観たい。
- 私も何か手伝えることがあれば手伝えたいと思えました。自分自身の生活を考える良いきっかけとなりました。
- 遠くで、身近な問題でした。
- チェルノブイリの問題だけでなく、村の人々の自然と水との関わり、家族や村人たちとのくらし、私たちと共通する身近な問題まで垣間見れ、考えさせられました。自然に涙が出てくるシーンが多くて、困りました。
- 「アレクセイと泉」の映画のなかで、水がこんなに大切なものかと思い、その後の講演会ので、改めてそれを実感しました。企画がしっかりしているなあと感心いたしました。
- 最近、近くに産廃処分場ができ、井戸水は果たして安全なのか心配になりました。「アレクセイと泉」は熊本の友人から聞いて知りました。仕事が終わって走ってきました。この映画の良さを知り合いに伝えたいと思います。貴重な作品の上映、ありがとうございました。
- 今イラク、アフガンいろんな国々で起こっている事、いつも希望をもって子供を育てていきたいと思いますが、時に悲しく地球の未来を考えます。私たちが何か残してあげられるものはありますか？
- 改めてチェルノブイリの事故について、忘れかけていたので気づかされました。人間の生活の原点があるような気がしました。放射能の怖さを改めて思いました。
- 映画を見て、悲しみと静かな怒りを覚えた。泉の水に希望を感じた。講演後、悲しみは深まり、怒りが熱を帯びた…。そして、希望を創らなければと思った。自分たちの手で。
- 足元を見てみようと思いました。

❖ 実行委員会参加者からのメッセージ ❖

ミーティングに2、3回出席、当日少しお手伝いしたのですが、若いひとたちの静かな働きに感激しています。ちよつと厄介な仕事でも黙々と仕上げてしまうのだからほんとに素晴らしい。まるでアレクセイのように、愚痴もこぼさず楽しげに。アレクセイと違うのは、こちらはたくさんのもだちがいること。知恵と技を出し合って分担してやっていられること。アレクセイの友達、馬と犬と蛙の姫君と。本当なら、この映像のここかしこに若者が存在していいはずなのに、アレクセイにも素敵な彼女がいるはずなのに。会場の若いスタッフを見ているとおのずからアレクセイのことが思われました。産廃処分場を見学できたことも、得難い体験です。あれからは焼却処分される家庭ゴミも曲者だぞと思うようになり、生ゴミは庭に埋めています。とにかく、素敵な若者たちと時間を共有できて楽しかったです。ありがとうございます。(山中陽子)

滾々と沸き出る泉水。淡々と暮らす人々。社会とは、世の中とは、生きるとは、斯くも単純なものだ。ミクロな個人の生活が、マクロナ他人の動きによって乱される。本橋監督が問いかける「本当の豊かさ」は、この差異の内に、ひとつ存在する。映画の上映会、ピースウォーク、講演会…。いろんなイベントを通じてマクロナ動きを訴えかける中で、どこまでミクロナ個人のレベルまで浸透できるか。3つのミニ講演は、映画とあいまって、泉の水のように、ミクロナ私たちが染みこんできた。(足立方也)

自分が観たいばかりに参加した上映会。映画を観ることができればそれでよかったはずなのに、「映画を観る」以外にいろんなおまけがついてきた。たくさんのNEW！ 新しい知り合いや、知らなかった環境問題や、ロシア人のウオッカの飲み方…。映画を観た友人達といろんな話をした。感想は各々。それぞれが映画や講演を堪能した様子。同じ映画を観て、これだけ違う観方があるんだと今更ながら考えた。あっこれもNEW！ 映画も観れて、世界も広がるっ！ 1粒で2度も3度もおいしい日々だった。(篠崎潤子)

昨年の12月谷口さんの「アレクセイと泉」というとてもいい映画があつて自分ももう一度見たいしみんなにも見て欲しいので上映会をしませんか」というよびかけに、1回目のミーティングに軽い気持ち(2回も見たい映画ってどんなの？ という好奇心につられてというか…)で参加しました。そこでパンフレットの写真に、ついでがスターの写真に、「ナージャの村」のビデオに…という具合にするするとひきつけられて、気がついたら当日受け付けに立っていました。

最初のイメージとちがって、上映するだけでなく、広く水のこと、ゴミのことに話がつながって、無知だった世界がまた一つ開けて、同時にいろんな方々との出会いもあつて、貴重な体験をさせていただき、それら人のつながりや、諸問題への意識を今後につなげてゆきたいと思っています。

実行委員としては2、3ヶ所にチラシを置きに通った程度で、チケット1枚売らなかつた役たらずでしたが、遠くからみえて「見たかつたんですよ、上映会をしていただいて有難うございます」と震える手でチケットを出された方、親子で来てくれてそれぞれに「よかつた」といって帰っていった友人、催し後もブースをゆっくり見てゆく方が多かつたことなど気持ちよく受付に立っていました。

かんじんの映画はなんとなくそわそわしてみたい、それではもつたない映画だという印象が残って、もう一度こんどは一顧客としてゆっくりみてみたいと思い、また「赤字にならなくてよかつた」と胸をなでおろしているところですよ。(矢野光子)

長崎県出身の私は放射能が何十年後までも影響を与えるということの認識はあつたが、現在ベラルーシ等において、自分より若い世代の人達がガン発症等の影響を被っていると知りいたたまれない気持ちになった。また自分の極めて身近なところにも汚染が広がっていることをこの目で確認した、筑穂町の産廃場の見学はこの先忘れることのない経験になった。

日常の「ゴミ出しの日」、ゴミ置場に置いたその瞬間から、私はそのゴミの行く末など考えたこともなかった。排水にしても同様に排水口に吸い込まれていったその水が自分の口に戻ることもなんて想像もしなかった。

そんな私が目にした光景、薄煙があがる膨大なゴミの山、産廃場のふもとのぬかるんだ土地、自然界にはありえない異様な色の汚水、そしてその汚水が流れ込む河。さらには鼻をつく異臭。私達人間は自然に對し、何という取り返しのないことをしてしまっているのだらう。汚水が地中のどの程度まで浸透しているのだらう…考えるのをやめたくなくなってしまった。以来、小さな事でもできることから始めよう、と私は自分自身の生活を見直し、ものを買う前と捨てる前に一考、生活排水にも

気をつけ、周囲の人にも話すよう心掛けている。

産廃場を一ヶ所見ただけでかなり暗黙々たる気持ちになった私はまだ見ぬアレクセイの村を想像し、放射能に汚染された広大な土地に思いを馳せ、また少し気分が重くなった。しかし、私の目の前に広がったのは深い緑の森、青い空、そして信じられないことに、そこに住む人々の笑顔と「土地に根付いた」という表現がびつたりゆるぎのない生活であった。「運命からは逃れられない」とアレクセイは言う。その運命をどう感じるかはそれぞれの受け止め方次第なのだらう。

私はこれほどしっかりと運命を受け止めて「生きていく」人々をほとんど見たことがない。アレクセイは泉の水が自分を中心に引きとめている、とも言っているが、そう思える彼の心のゆたかさ、強さに驚いた。興味本位でこの上映会に関わった私だが、今回自分の生活の足元から見直すきっかけを得たばかりか、運命と向き合っている村の人々から、今後私を支えてくれる多くの事を学んだ。本当に上映できてよかったと思う。この映画に関わっているすべての人に感謝したい気持ちでいっぱいである。

(平山敏子)

チエルノブイリ支援運動・九州 第13回総会

二〇〇三年三月九日、14時よりウインドファーム(福岡県遠賀郡水巻町)にて実施

一、二〇〇二年度活動報告

「一」主な活動

1. プレスト第一回検診団、第十七次調査団の派遣

【期 間】

二〇〇二年七月二十六日～八月八日

【メンバー】

片桐誠(永寿病院副院長)、三村孝(伊藤病院副院長)、高津圭介(伊藤病院医師)、菊川憲司(顧問・通訳)、山田英雄(医療通訳・コーディネーター)、谷口恵(支援運動・九州事務局)

【内 容】

プレスト市での検診、調査、医薬品・医療器具の贈呈、関係者打ち合わせ

【支援物資】

検診用医療器具、医薬品、エコー、外科手術セット、体重計、白衣

【支援先】

プレスト州立内分科診療所、甲状腺 ガンセンター(第一番病院内)、医学再教育センター内分科 泌尿科、ベラルーシ赤十字

2. プレストにおける第二回検診団、第十八次調査団の派遣

【期 間】

二〇〇二年十一月十四日～十二月二十五日

【メンバー】

武市直雄(広島甲狀腺クリニック院長)、横路謙次郎(広島大学名誉教授)、池田隆文(済正会広島病院検査技師)、三本亜希(広島甲狀腺クリニック検査技師)、有賀旬子(くろつち整形外科クリニック看護婦)、星正治(広島大学原爆放射線医科学研究所教授)、矢野宏和(支援運動・九州代表)、山田英雄(医療通訳、コーディネーター)

【内 容】

プレスト市での検診、調査、医薬品・医療器具の贈呈、マラジエツナヤ地区での検診、関係者 打ち合わせ

【支援物資】

検診用医療器具、医薬品、エコー、外科手術セット、白衣、電子内視鏡

【支援先】

プレスト州立内分科診療所、甲状腺ガンセンター(第一番病院内)、医学再教育センター内分科 教室、ベラルーシ赤十字

3. 機関紙の発行

『チエルノブイリ通信』を3回発行し、会員ならびに関係者・関係団体へ送付した。

- 53号 二〇〇二年六月二〇日
- 54号 二〇〇二年九月十八日
- 55号 二〇〇三年二月二四日

4. ストーリン検診総括会議の開催
二〇〇二年四月七日(日) 広島市留学生会館

5. 工房「のぞみ21」との
フェアトレード・支援活動
購入 二〇〇二年八月三日
二〇〇二年十二月二日

販売 常設 福岡YWC Aホームページ
チェルノブイリ通信を通じての通信

四月二〇日(土)「スズミ」(北九州国際交流団体ネット
ワーク)総会・講演会・交流会。九月二七日(金)
まで、土夢創舎、ペラルーシ祭り。九月二九日(日)
「アレクセイと泉」上映会。一〇月五日(土)、六日

(日)東京日比谷公園「国際協力フェスティバル」。一
〇月二三日(日)、十四日(月祝)福岡市天神、地球市民
どんたく。十一月一六日セヴァンスズキ福岡フォー
ラム 他

6. 出張勉強会
六月一〇日、国際ボランティア講座七月四日、太宰府
市学業院中学校九月三日、福岡映画サークル協議会一
〇月一九、二〇日、福岡県立博多青松高等学校通信制

7. チェルノブイリ支援コーヒー販売

「二」チェルノブイリ支援運動・九州の組織
の現状

1. 運営委員会体制、活動について
・運営委員会を月一回開催し、事業の検討を行う。
・運営委員会後「運営委員会だより」を関係者へ発送
し、状況報告、意見の収集を行う。

2. 現在の会員数
一八四〇名

「三」二〇〇三年度の取り組み
(事業)

1. プレストにおける第3回検診
7月に専門家・スタッフによる検診団を派遣し、検診、
調査、医療機器・医薬品提供、医療技術の伝達を行う。
日本からの医学生を同行し、学習の機会とする。

2. プレストにおける第4回検診
10月頃に専門家・スタッフによる検診団を派遣し、
検診、調査、医療機器・医薬品提供、医療技術の伝達、
医療シンポジウム開催。

3. 「雪だるま2号」キャンペーン
医療検診車「雪だるま号」の老朽化に伴い、新車購入
のためのキャンペーンを展開。2004年夏の検診ま
では購入、贈呈する。

4. 工房「のぞみ21」との
フェアトレード・支援
検診の際に民芸品を購入し、国内で紹介・販売

5. 雪だるま号の活用
検診時だけでなく、患者の移送、ストーリン地区の
フォローなどに役立てる。チェルノブイリ支援を行う
日本国内の団体にペラルーシでの交通手段として雪だ
るま号を活用してもらう。帰国後報告を受けて、チェ
ルノブイリ通信などで公表する。

6. チェルノブイリ通信発行(年3〜4回)

7. チェルノブイリ支援コーヒー販売

8. 出張勉強会
学校や地域の集まりなどに講師を派遣し、チェルノフ
イリ事故や支援活動、ペラルーシの現状などについて
知る機会を提供する。

9. 検診前準備会と検診後報告会
年2回の検診の前に検診参加者・運営委員での準備会
と、事後に会員・一般向け報告会を行う。

10. ストーリンにおける検診団派遣・
調査団派遣五年間の報告書作成
〔重点項目〕

1. プレストにおける検診を通じて、ペラルーシ日本
両方の若手医療専門家の人材育成

2. マラジエーツナヤへの支援(リクビートル支援
を含む)のあり方の検討、そのための調査

3. バザー、イベント等への出展、民芸品・コーヒー
の販売、広報

4. ホームページ、インターネットによるの情報発信
チェルノブイリへの支援活動を充実させるための
助成金活用

5. 他団体、個人との連携、雪だるま号、通信、のぞ
み21への関わりなどを通して繋がりをつくる。

6. 新しく活動に関わる人を増やす。ボランティアへ
の積極的呼びかけ

2002年度 支出	
住居	45,000
電話	180,716
送料	1,013,320
活動費	1,977,567
事務文具	141,359
印刷	505,350
振替手数料	84,935
交通費	587,204
会議費	17,244
写真・絵画	44,889
調査団派遣	2,734,111
プレスト第1回検診	5,208,329
プレスト第2回検診	2,955,721
ユービー入れ	80,820
その他	58,436
支出合計	15,635,001...②

《決算》2002年度 収入		
募金	三千円コース	1,800,500
	五千円コース	907,070
	一万円コース	1,292,480
	カンパ	6,970,536
支援コーヒー		1,703,483
書籍	雪だるま	117,497
	ペラルーシの旅	8,840
	十年史	161,490
民芸品		199,982
返却金	医療器具返品	134,129
配当		23
換金		784,664
雑収入		15,000
補助金		4,726,471
前期繰越金		2,966,051
収入合計		21,788,216...①

収入合計①-支出合計②=6,153,215 ……2003年度へ繰越
21,788,216 15,635,001

運営体制
代表 矢野宏和
運営委員長 津島朋憲
運営委員 矢野宏和、河上雅夫、
山口英文、津島朋憲、
大友大樹、寺嶋悠
谷口恵、吉本美貴
福井寿雄、安永京子

2003年度 支出	
住居	180,000
電話	200,000
送料	1,200,000
活動費	3,000,000
事務文具	140,000
印刷	800,000
振替手数料	100,000
交通費	600,000
会議費	20,000
写真・絵画	20,000
プレスト第1回検診	5,000,000
プレスト第2回検診	6,000,000
雪だるま号	3,000,000
支出合計	17,260,000...②

《予算》2003年度 収入	
募金・カンパ	11,000,000
支援コーヒー	550,000
書籍	300,000
民芸品	200,000
補助金	4,000,000
配当	1,000
前期繰越金	6,153,215
収入合計	22,204,215...①

収入合計①-支出合計②=4,944,215 ……2004年度へ繰越
22,204,215 17,260,000

たくさんのお金をありがとうございました

(敬称略・順不同)

宗像喜子 くらつち整形外科クリニック 山本友美 寺地哲郎 村上和代 吉村敬二 峯和子 味村真知子 めぐみ保育園職員一同 医療法人産科婦人科シモムラ医院 森下須美子 鳥取治代 高木裕子 添田福美 戸田隆 有賀淳子 深堀ミチ子 森澤恵子 西井久芳 宮田香子 林隆子 児玉弘子 高藤富美子 椛島一郎 松下竜一 鮎川宣子 粟屋千恵子 かどもと眼科医院 加登本紘猪木薫 喜岡笙子 小塩恵理子 武田孝子 五郎丸美穂 緒方貴穂 木下政彦 高橋由紀子 山田美佐子 堀江誠子 角場純子 川崎君子 門司三智子 成富祐子 下川ツトム 井上信子 野原初五郎 井上礼子 渡辺亮一 グリーンコープ生活協同組合おおいだ 奥平篤子 坪山美由紀 山口真代 伊勢田規子 医療法人松本小児科医院 松本常圃 丹田節子 大久保伸子 中富久美子 斉藤美代子 中村弘子 金井順子 合志和江 富永和子 末若修 詫間和子 林田英明 西レイ 藤田栄子 正成雪子 森戸春江 鈴木弘子 松木裕之 高木博子 奥村美奈子 岡本幸恵 井上輝美 稲田あけみ 椛島真由美 橋本照子 高村久美 花田あさの 新納ファミリィ 堤よしの・たけし 太田千賀子 榊田千絵 福井寿雄 飯岡知子 渡辺絹子 杉下啓恵 長野淑子 羽田弘子 大田澄子 チャリティーコンサート実行委員会 橋口日出夫 松下京 稲吉清子 箱田裕司 藤ノ原良子 尾辻泉 長谷祐子 津田由香 石橋千恵子 佐藤寿恵子・進一 佐野佐智子 林裕之 諫元富子 立石肇 堀本知子 飯屋崎寛子 大園広子 高森徳子 岸川美好 桧原こひつじ幼稚園こひつじ基金 今村康子 今井涼 上田和子 木村みさ子 鳥越まち子 井上美由紀 ふくおか生協 松永班 三輪和子 大久保弓子 前田・中西・沖

黒岩浩 ナマケモノ倶楽部 仲美和子 中西孝子 古川玲子 江越知佳子 宮元寿子・美帆 岩下育男 福嶋裕子 飯屋園幾代 長田いをり 古賀えみ子 内田ひかり・あや 中村守 隅田三和 宮盛雅之 田中順子 江口淳子 上野結 姪の浜2丁目1区子ども会 古賀千種 西井田智枝 山崎末吉 村島実恵子 福山知恵子 栗田光子 西山八千代 久保山彬子 池田愛美 深田俊江 グループ・イーハトーヴ 澤田和子 小田ゆかり 柳楽翼 自治労福岡県職員労働組合 チェルノブイリ友の会伏尾台 菊池順子 村上和代 筑豊互助会 松本弘子 測レディスクリニック 舞鶴幼稚園 岡田・清水・山平・和田 森田ゆかり 多田宏美 高知土と生命を守る会 平泉悦子 じゃがいものおうち 力丸邦子 グリーンコープ生活協同組合ひろしま グリーンコープ生活協同組合くまもと ほか多数

(二〇〇三年二月一日より四月三〇日までの募金です。通信にお名前を紹介することを許可頂いた方、ならびに「のぞみ21」民芸品、チエルノブイリ支援コーヒーの購入を通して活動を支援下さった方のみ、掲載しています。)

三千元コース 五〇一、〇〇〇円(一六三〇) 五千円コース 一八〇、〇〇〇円(三三〇) 一万円コース 二五二、〇七〇円(三三〇) 雪だるま2号カンパ 三九七、〇一五円(八五〇) その他カンパ 四七五、三〇九円(五六〇) (分割払いの方もいるので数字は割り切れていません。)

合計 一、八〇五、三九四円
財団法人新潟県国際交流協会より、第3回プレスト市移動検診における医療器材費としまして、一、〇〇〇、〇〇〇円の助成をいただきました。

募金者からのメッセージ 一部抜粋

応援しています。「ナージャの村」を観て何かできないものかと考えていました。コーヒーも大好きなので、これからも協力していきたいと思えます。雪だるま号カンパレ！子ども達が皆幸であることを願います。私は被爆者です。少額ですが、支援運動がんばってください。原発を無くしたい思いで省エネをしています。微力ながら、頑張ってくださいね。私達も働いて働いて一生懸命支援します。あたらしい車をはやく買えますように。家計がきびしいので少額ですが、皆さん頑張ってください。「雪だるま号」さん、長い間がんばってください、ありがとうございます。気持ちだけが...。応援しています。私達は幸せだと思えます。頑張ってください。がんばってください。ありがとうございます。雪だるま号カンパレ!! 雪だるま2号車が早くできますように。微力ながら御協力出来ればと思っております。雪だるま2号早く買えますように。遠い空から皆様の御幸運をお祈りします。陰ながら応援させていただきます。少しですが、気持ちです。気持ちだけです。子ども達の幸を祈っています。グリーンコープの学習会、ありがとうございます!! 少しですが、何かのお役に立てれば幸いです。気持ちばかりのカンパですが心より健康になれることを祈っています。「アレクセイと泉」いつになるかわからないけれど、日田でも上映したいと思っております。わずかですが、何か役にたてて下さい。生かされて生きている事に感謝しています。ほんの少しですが、お役に立てばうれしく思います。ほんとうに少しですがお役に立てるとうれしいです。大変でしょうが頑張って。気持ちばかりの支援をさせて頂きます。毎回、ささやかですが、御役に立ちます様に。いつも応援しています。少しでもお役に立てたらと思えます。いつまでも忘れません。イラクにだけ目を向けないで!! がんばってくださいね。お疲れさまです。「アレクセイと泉」の上映会、とても良かったです。子ども達が手作り等がんばった、バザーの売上金です。少額ですが役立ててください。がんばってください!! 少しずつ支援の輪が長野でも広まりつつあります。嬉しいです。